

【重点施策】令和3年度 若年層を対象とした自殺対策事業について

1 SOSの出し方に関する教育について

(1) 目的

- ・子どもが、現在起きている危機的状況または今後起こりうる危機的状況に対応するために、適切な援助希求（身近にいる信頼できる大人にSOSを出す）ができるようにすること、また身近にいる大人がそれを受け止め支援できるようにする。
- ・心の危機に陥った友達への関わり方を学ぶ。（SOSの受け止め方）友達の感情を受け止め、考えや行動を理解しようとする姿勢などの傾聴の仕方を学ぶ。

(2) 対象 市立中学1年生（889名）

(3) 実施日程

ア 教員向け研修会

実施年度	日程	場所
令和2年度	8月19日（水）2部制	すこやかセンター
令和3年度	6月中旬から下旬	各市立中学校

イ SOSの出し方の授業

実施年度	日程	場所
令和2年度	9月から10月	各市立中学校
令和3年度	7月上旬	

(4) 内容

- ・『自分を大切にしよう～ストレスへの対処』をテーマに、DVD教材を視聴しながら、自分がつらい気持ちになった時や友達がつらそうにしている時の対処法について想起し、グループワークで共有する。

(5) 主なアンケート結果（※参考2 詳細P.1参照）

- ・9割を超える生徒が「自分の心から出るSOSのサイン」「友達のSOSのサイン」の理解について「よくわかった（わかった）」と回答した。
- ・授業を受けて「今後悩みや心配事があった時に相談する」という生徒の割合が増加した。（令和3年度 実施前 50.0%→実施後 71.3%）
- ・「悩みや困り事がある友達から相談されたときの関わり方」について、「悩みを聞いてあげ少しでも友達の気持ちがよくなるようにしてあげることが大切」という回答が多くあった。

(6) まとめと課題

ア まとめ

- ・ アンケート結果より、本授業の目的である援助希求能力（身近にいる信頼できる大人にSOSを出す）の重要性を改めて感じてもらうことができた。
- ・ 自分自身が周囲に相談することの大切さだけでなく、友達や周りの人から相談されたときの対応方法（SOSの受け止め方）についても学ぶことができた。
- ・ グループワークを通して友達の意見等を共有することで、自分が普段行っているストレスの対処方法について振り返りながら、その他の対処方法の選択肢を増やすことができた。
- ・ 保健師が授業に参加したことで、学校以外の相談窓口について、具体的に案内することが出来た。

イ 課題

- ・ 「対処方法は分かったが、実際に行動を移すことは難しい」といった回答もあり、相談することに対してまだまだハードルが高いと感じる生徒がいる。身近にいる大人が子供の出すサインを適切にキャッチできるよう、連携していくことが必要である。
- ・ 市全体での若年層の自殺者数は横ばいの状況であり、また、児童生徒の自傷行為は増加していることから、今後も引き続き相談することの大切さを伝え、適切な援助希求が身につけられるよう取り組んでいく必要がある。
- ・ より効果的な授業実施に向け、実際に授業を実施するクラス担任に対して、授業の必要性や目的、実施方法等について事前研修会や打ち合わせを丁寧に行う必要がある。

(7) 次年度の方向性

- ・ 生徒の授業に関する理解を深められるよう、クラス担任に対し、具体的に授業の目的や実施方法等の事前研修会を実施する。
- ・ 保健師が授業に参加し、積極的に声掛けを行うとともに、相談窓口を記載した啓発物品を配布し、学校以外の相談窓口についての周知啓発を行う。

2 メンタルヘルス予防教育（旧：誕生学）の授業について

(1) 目的

「生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」をコンセプトに、『誕生』を通して、子どもに「自分自身の生まれてくる力」を伝え、生まれる力を再認識することで自尊感情を育む。

(2) 授業名の変更

昨年度は授業名を「誕生学」としていたが、家庭環境に複雑な背景がある生徒等へ、誕生学という授業名を全面に出すことによる影響を考え、令和3年度はメンタルヘルス予防教育に変更した。

(3) 対象 市立中学2年生（816名）

(4) 実施日程

実施年度	日程	場所
令和2年度	10月	各市立中学校
令和3年度	10月から11月	

(5) 実施方法、実施内容

- ・講師：一般社団法人誕生学協会 誕生学アドバイザー 澤田 貴美子 氏
- ・方法：パワーポイントと映像を用いた講話。
赤ちゃん人形と骨盤モデルを用いた、妊娠経過の再現。
- ・内容：命の始まり（受精卵の話）から、お腹の中での成長、そして誕生について、スライドと人形を使用して説明し、赤ちゃんが自分自身ですごい力を発揮してきたことを伝える。またプライベートゾーンの大切さや、LGBTQについても触れ、自分らしさを大切にすることを伝える。

(6) 主なアンケート結果（※参考2 詳細 P. 3 参照）

- ・「自分自身の生まれ持った力はあるか」や「自分の長所はあるか」などの質問に対して、「思う（どちらかといえば思う）」と回答した生徒の割合が増加（令和3年度実施前 60.0%→実施後 77.0%）しており、自己肯定感や自尊感情を高めるための学びにつながった。
- ・気づいたことや印象に残ったことなどの質問に対し、5割近くの生徒が「命の大切さを感じた」「自分に自信がもてた」「自分や他者を大切にしていきたい」「たくさんの人に守られていることに気づいた」等回答しており、命の尊さや自分自身を大切にする気持ちを育むことができ、また、周囲の人に支えられていることへの気づきにつながった。

- ・昨年度の SOS の出し方教育時のアンケート結果と比較し、1 年経過後の援助希求状況（「最近悩みや心配事を相談した」と回答した生徒の割合）について、ほぼ同程度の割合を維持していることが分かった。

- ・スライドだけではなく、出産時の映像や赤ちゃん人形と骨盤モデルを用いた、妊娠経過の再現をすることで、赤ちゃんが生まれてくるときの具体的なイメージが付きやすく、説明が分かりやすかったと回答する生徒が多かった。

(7)まとめと課題

ア まとめ

- ・妊娠、出産の経過から、命の誕生について学ぶことで、自分自身の持つ力や周囲の人たちに大切にされてきたこと等を生徒が感じることができ、自分自身を大切にすること等、自己肯定感の向上につながった。

イ 課題

- ・より深い学びにつなげるために、一方向的な講話だけではなく、講師と生徒が双方向でやりとりができるような授業内容になるよう調整し実施する必要がある。
- ・自己肯定感・自尊感情を高めるための授業内容とあわせ、援助希求の重要性についての継続的な周知啓発が必要である。

(8)次年度の方向性

- ・より深い学びにつなげるために、講話の内容はポイントを絞るなど授業内容の調整や学生が主体的に参加できる実施方法等について調整し実施する。
- ・現在中学 1 年生に対して、適切な援助希求能力を獲得することを目的に SOS の出し方に関する授業を実施しているが、中学 2 年生に対しても、生徒に対して継続的に周囲に相談することの大切さ（適切な援助希求）、相談窓口の周知を継続して行えるよう啓発方法を検討する。